

## イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発掘と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。ここではそのなかのいくつかをご報告します。

### 第15回の節目に「お初・徳兵衛」も参加 堂島薬師堂節分お水汲み祭り

2018年2月2日／堂島薬師堂、曾根崎新地一帯 主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

江戸時代から続く節分の「鬼追い」行事、北新地花街の風習「節分お化け(仮装)」、水都大阪にふさわしく水に感謝する「お水汲み祭り」が一つになった早春の恒例行事。奈良薬師寺の村上太胤管主による節分法要や薬師寺僧侶たちによる日本の歌謡の原点といわれる「声明(しょうみょう)」をはじめ、北新地芸妓衆による舞の奉納やホステスたちによるお化けが披露され、多くの見物人で賑わいました。2004年にはじまり第15回を迎えた今年は、当地が舞台の浄瑠璃「曾根崎心中」にちなみ、文楽人形遣いの桐竹勘十郎氏と吉田養二郎氏が違う「お初と徳兵衛」も参加しました。関西・大阪21世紀協会は、水都大阪の再生をめざし、この行事の立ち上げ時から参画してきました。



村上太胤管主からお香水を受ける黒田章裕関西経済同友会代表幹事(堂島アバンザ特設舞台)

### 新春のミナミに賑わい添える伝統行事 今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」

2018年1月10日／道頓堀～今宮戎神社 主催：十日戎宝恵駕振興会

今宮戎神社「十日戎」の奉納行事として、大阪府無形民俗文化財に指定されている宝恵駕行列。江戸時代にはじまり、明治中頃からは花街の誘客や商売繁盛を祈願して行われ、当時は100挺もの駕が担がれ、賑わいました。現在は地元商店会や経済界などの協力により、その伝統が受け継がれています。今年は芸妓を代表して祐子さんを先頭に、歌舞伎俳優の中村幸太郎さんや文楽太夫の竹本織太夫さんらが駕に乗り、「ほえかご、ほえかご」の掛け声とともにミナミの商店街に繰り出し、今宮戎神社を参拝しました。関西・大阪21世紀協会 上方文化芸能運営委員会は、宝恵駕振興会実行委員会の役員を務め、実施運営に携わっています。

ほえかご



ミナミの商店街に繰り出す宝恵駕行列

### 外国人写真家が見た日本の面影と日本人 交流サロン 21cafe

エバレット・ブラウン氏(国際フォトジャーナリスト、日本文化研究家)

2017年11月22日／中之島センタービル

日本各地を旅しながら日本の伝統文化を探求する写真家エバレット・ブラウン氏を招き、江戸時代末期から明治初期の撮影技法である「湿版光画」で撮影された同氏の作品を紹介。伝統祭事や職人たちのポートレートなどから、日本の面影や日本文化の将来について考察されました。その中で、「日本人はモノを単なる道具ではなく、そこに生命を感じ、特別な思いを込めている。女子高生が携帯電話にデコレーションを施すのはそうした国民性の表れ」とし、匠の精神は職人固有のものではなく、日本人の国民性だと指摘。現代の若者が庭師や染織などの伝統的な職人の仕事に携わり、その精神は脈々と受け継がれていると解説されました。



エバレット・ブラウン氏



湿版光画で撮影された写真  
写真提供：エバレット・ブラウン氏

### 2017年度 関西元気文化圏賞贈呈式

2018年1月22日／リーガロイヤルホテル大阪

文化・芸術・スポーツなどの分野で活躍し、関西から日本を元気に明るくした人や団体などへ、感謝と一層の活躍を期待して2003年に創設された関西元気文化圏賞。その贈呈式が文化庁芸術祭賞贈呈式と合同で行われました。今年度は、陸上選手の桐生祥秀さんに大賞、囲碁棋士の井山裕太さん、京都国立博物館に特別賞が贈られ、文楽太夫の竹本織太夫(おりたゆう)さんらにニューパワー賞が贈られました。



受賞者と主催者

大阪市出身の織太夫さんは、8歳で豊竹咲太夫に入門し、

文楽の素晴らしさを広めるべく多方面で活躍する注目株。2018年1月に国立文楽劇場(大阪)で開催された人間国宝・八代目竹本綱太夫「五十回忌追善公演」において、江戸時代から続く大名跡の六代目織太夫(綱太夫の前名)を襲名し、次代の文楽を担う太夫の一人として、魅力ある舞台が期待されています。織太夫さんは賞贈呈式後の祝賀会で、「文楽界で40歳といえば、まだまだ若手。この素晴らしい芸能を世界にも届けたい」と笑顔で語りました。また、同賞は、国内外の数々のコンクールで受賞経験のある中学生チェリストの北村陽さん(西宮市出身:P21に記事)、「バブル」をテーマにしたキレのあるダンスで全国的に話題となった大阪府立登美丘高等学校ダンス部にも贈られました。



竹本織太夫さん  
(合同祝賀会にて)